

⑥ 学生の自主活動

千々石海岸の漂流漂着ごみ清掃

2008年7月17日(休)、橘湾に面した千々石海水浴場の海開きシーズンにあわせて、千々石海岸に漂着したごみの回収、清掃活動をおこなった。

実施にあたっては、環境科学部環境教育研究マネジメントセンター・長崎県環境部・雲仙市の三者に加え、長崎海上保安部とも連携した。また、「雲仙市温暖化防止対策・ESD協議会」を構成する地域住民にも参加を呼びかけ、環境科学部の学生ボランティアとともに汗を流した。

今後は、雲仙市における学生と地域住民とが協力して取り組む地域活動として定着したものとなるよう、継続して実施の予定である。



平成20年度6月 環境月間街頭キャンペーン参加

地球温暖化をはじめとする環境問題に対する県民の理解と関心を深めるとともに、環境保全に関する意識の高揚・啓発を図り、環境保全活動を広めていくことを目的に、平成20年6月1日、長崎県・長崎市主催の「環境月間街頭キャンペーン」が長崎市の「浜の町ベルナード観光通り」で開催された。本催しに長崎大学教育学部系山研究室と長崎大学環境サ・クル「っじゃすみん」の学生が自主参加してキャンペーンを盛り上げた。



学園祭期間中に10種類のごみ収集・分別を学生が実施

「長崎大学エコマジック」サ・クルの学生が平成20年11月21日～23日の3日間開催された学園祭期間中に、ごみのきちんとした収集・分別を実施するために、学内で平常時使用しているごみ箱を一時封鎖した上で、代替のごみ箱を設置して10種類のごみの収集・分別を実施した。



放置自転車再生

最近キャンパス内で放置自転車が増加している。学生の自主活動団体の「自転車再生委員会」は、大学側で所有権解除手続きを行った放置自転車を引き取り、修理、再生して利用希望者と誓約書を交わした上で提供を行いREUSE活動を行った。さらに、一般からの修理等も実施し、自転車の使い捨て防止、継続使用等についてイベント等で啓発活動を行った。

平成20年度実績は回収自転車130台(部品取り用車体も含む)を62台に再生して、学生と一般に58台提供した。



○サイエンスワールド(SW)in 宇久 2009年2月22日

子ども達が本来持っている科学・技術への興味・関心を揺さぶり、その面白さを体感してもらい、更には自然に対する豊かな感性、環境問題への関心を育成することを目的として、教育学部生19名が実行委員会を立ち上げ、大学教員8名、現地教員15名の協力の下、140名の参加者を得て開催しました。準備の段階から実践の場を通して、内容の企画、大学の先生・現地の方々との連携など、さまざまな苦勞がありました。しかし、そういった苦勞の中で子どもたちの純粋な笑顔や、離島の人々の温かさに触れ、人と人のつながりといったものを改めて感じることができました。大学での講義では決して学ぶことのできない非常に貴重な経験を積むことができたと思います。



○海岸環境教室「海の世界博士になろう」in 長崎市科学館

この事業は、学生の提案による大学と公共施設の連携授業です。以前に比べ、ふだんの生活で海に行く機会が激減している子どもたちに、海の現状、海の面白さや楽しさ、不思議さを知り・発見する機会を作りたいと考え、この企画を提案しました。内容は、漂着物を通して、海の現状や環境面での問題点、私たち(自分)にできることを考えてもらう講義が1時間と、漂着物を使ったクラフトづくりが1時間です。11月29日10~12時に長崎市科学館実験室で、小学生9名を対象に実施しました。海や漂着物に、もともと興味があった子どもたちが多く、実物を提示しながら進めた授業なので、とてもスムーズに行えました。大学で学んだ知識を活用でき、今後の進路選択に参考になりました。

